

豊田市交通安全市民会議

令和4年度

交通安全作品集



豊田市長賞

山口 華那 (竜神中2年)



豊田市議会議長賞

宮戸 春寧 (上鷹見小2年)



豊田警察署長賞

浅沼 美来 (豊田西高1年)

はじめに

豊田市交通安全市民会議では、交通安全作文・交通安全ポスター・交通安全標語を募集しています。作品の制作を通し、作者自身の交通安全意識を高めていただくとともに、作品を公開することにより、多くの方へ交通事故撲滅の願いを届けたいと考えています。

今年もたくさん交通安全作品の応募をいただきました。この「交通安全作品集」に掲載した作品は、交通事故の恐ろしさ、悲しさ、心構えなどをつづった作文、工夫されたデザインや、力強くあるいは繊細に描かれたポスター、そして簡潔でわかりやすく交通安全を訴えた標語で、いずれも厳正な審査を経て選ばれた、すばらしい作品ばかりです。

コロナ禍において、生活環境や交通状況が変化している中、この「交通安全作品集」を多くの方にご覧いただき、皆様の交通安全意識の高揚と交通事故防止にお役立ていただければと思います。最後に、交通安全作文・交通安全ポスター・交通安全標語をご応募いただきました多くの皆様に、心から感謝とお礼を申し上げます。

豊田市交通安全市民会議

会長 深津 澄男

目次

交通安全作文の部

《最優秀作品》 6点..... 1ページ

①豊田市長賞	水野 純怜	保見中学校	2年
②豊田市議会議長賞	大宮 侑真	豊田西高等学校	1年
③豊田警察署長賞	山内 陽明里	前林中学校	1年
④足助警察署長賞	加藤 綾花	豊田西高等学校	1年
⑤豊田市教育委員会賞	岡村 拓真	市木小学校	1年
⑥豊田市交通安全市民会議会長賞	梶山 凜花	五ヶ丘小学校	2年

《優秀作品》 1点..... 7ページ

《佳作作品》 1点..... 8ページ

交通安全ポスターの部

《最優秀作品》 6点..... 表紙・裏表紙

①豊田市長賞	山口 華那	竜神中学校	2年
②豊田市議会議長賞	宮戸 春寧	上鷹見小学校	2年
③豊田警察署長賞	浅沼 美来	豊田西高等学校	1年
④足助警察署長賞	出口 結衣	大沼小学校	3年
⑤豊田市教育委員会賞	林 莉奈	中山小学校	2年
⑥豊田市交通安全市民会議会長賞	山下 なつみ	豊田高等学校	1年

《優秀作品》 11点..... 9ページ

《佳作作品》 12点..... 11ページ

交通安全標語の部

《最優秀作品》 1点..... 13ページ

①豊田市交通安全市民会議会長賞	関 たづ子	一般
-----------------	-------	----

《優秀作品》 5点

《佳作作品》 7点

交通安全まんが..... 15ページ

※作文中に引用されるデータは、制作者本人の調査によるものです。

※作文中の表現については、原文を基本として掲載しておりますが、誤字、脱字については、事務局で修正させていただいております。

『家族が交通事故に』

保見中学校 2年 水野 純 伶

六月に祖父が交通事故にあいました。祖父が、運転中に、前の車が急に止まったので、祖父も止まったところ、後ろの車に追突されました。その日は、たまたま母は、仕事が休みで家にいました。そこに、祖母が慌ててきたそうです。

「おじいちゃんが追突された。」

と、いつもは冷静な祖母が焦っていました。母も動揺しながらも

「おじいちゃんから連絡あったの？」

と聞いたそうです。祖母の話では、追突されて、今警察を呼んでいる。と連絡があったとのことでした。祖母が、祖父のころに行きたいと言ったので、母が運転して、事故現場に向かうことになりました。運転中に、

「その道だったら、昼間渋滞してそんなスピードは出せないはずだから、大きい事故でもなさそうじゃない。」

と言いながらも、母は焦りから、いつもよりスピードが出ていたそうです。現場に着くと警察官、祖父、追突した運転手が、事故の現場検証をしていました。祖父の無事な姿をみて、祖母も母もほっとしたそうです。事故の原因は、後方の車の前方不注意でした。警察官の方から、追突されて痛いところもあるようなので、病院に行った方がいいということで母が救急車を呼んだそうです。事故現場の住所を聞かれた時に、電柱を見ても住所が書いて無くて、目印を聞かれた時に、その建物が東側に見えますか？と聞かれた時に、どっちがどの方向か訳がわからなくなり焦ったそうです。救急車がみえたら、大きく手を振ってください。と言われ、必死に手を振ったそうです。その後、母は、病院に付き添いました。車が凹んでいるだけだし、と思いながらも、祖父が画像の検査に行ってる時は、心配すぎてお腹が痛くなったそ

うです。祖父は、検査で異常はなく検査終了後、すぐに家に帰ることができました。その日の夜、母に事故の話を聞き、弟達も動揺しました。祖父が無事ではあったけど、家族が事故にあつと、こんなにも心配な気持ちになるんだということに、改めて気付かされました。私は、習い事に行く時に、父や母に送ってもらいます。何時までいけないといけない、友達と話す約束をしているとか、急かすような発言をしたり、今の信号で行けばよかったのと言ったこともあります。祖父の事故のこともあり、私の発言は、すぐ運転手にプレッシャーを与えているなと反省しました。そんなことを言うよりも、自分が早く準備して、早く家を出られるようにしようという気持ちになりました。自分が安全を意識するようになると、危険な運転をしている人がすぐ気になるようになりました。えっ？ここに入るのは無理だよとか、危ないなあと思うことが増えました。きつと運転手さんにも、慌てないといけない理由があったり、ただ単に行ける行けると思って運転しているかはわかりませんが、事故を身近なものに感じた私にとっては、運転は、自分の都合でするものではなくて、交通ルールを守ってするものであると思います。母が祖父の事故現場に行く時、焦ってスピードがいつもより出ていたと言っていますが、明らかに冷静さが不在の中で運転だと思っています。たまたまのタイミングで起きるものだと思うので何もなかったら、ラッキーとは思わずに、運転は、気持ち落ちついて、冷静に判断できる時にするものだと思います。今の車は、衝突被害軽減ブレーキ等、車自体の性能は、すぐ進化しています。だからこそ、それに併せて運転する人も今以上に運転に集中していれば、事故のない世の中になるのでは、と思います。安全に事故なく人々が移動できるのは、理想です。みんなが守ることで、理想が現実になります。そういう世界になることを願っています。

『交通事故防止のためにどうするべきか』

豊田西高等学校 1年 大宮 侑 真

これはある日の夜のことだった。その日は雨が激しく降っていた。塾が終わって家に帰ろうとスマホを見たら、もう十時であった。外はもう真っ暗だ。家族に帰る連絡をして傘をさして歩いた。そして何事もなく横断歩道を渡り始めた。もちろん、この時は青信号だった。青信号なので僕は特に何も考えずに普通に歩いていた。しかし、ここで思わぬ事態が発生した。なんと交差点を右折した車が歩いている僕の方につつまってきた。そして高いブレーキの音を立てて体すれすれのところまで止まった。突然の事態に僕は驚いた。青信号を確認して普通に歩いていただけなのに。しかも、その付近には建物もたくさん建っており、暗い道ではないと思う。車は何事もなかったかのようにそのままどこかに行ってしまった。家に帰ってから僕はこのことを親に話した。すると親は、傘をさしていた僕に気付かなかったのかもしれないと言った。僕の傘の色は黒っぽい色だ。どうやら黒い傘では車のライトを照らしても、運転手から人がいることが分かりづらいらしい。僕はこの体験から、交通事故を防ぐためには、一人一人が細かいところまで本当にしっかりと注意しなければならぬことに気付かされた。僕は今まで交通事故は飲酒運転、信号無視、道路への飛び出しなどが原因なので自分はそんなことはしないから特に意識してまで気を付けることはないなと思っていた。しかし自分にも事故になっていたかもしれないと思わぬことが起きた。自分も他人事ではないということが分かった。それから、どうしたら対策ができるのかを考え、親との相談の結果、傘を黒から透明にし、塾に行くときのかばんに反射材をつけることにした。傘を透明にすれば、車のライトが当たった時、光が反射して運転手から自分が見えやすい。さらに反射

材をかばんにつけることで傘を使わない日でも暗い中、自分の存在を分かりやすくしようとした。これからは、外に出る時はより周りを意識して安全な行動をして事故を防ごうと思った。

次に、ドライバーについてよく考えてみた。スマホでニュースを見るたびに、交通事故が記事に取り上げられている。なぜ交通事故は完全に防ぐことができないのか。飲酒運転やながら運転などは、なぜやってしまう人が多いのか。この作文を書いている間、ずっとそんなことを思っていた。そして僕は「ドライバーは自分の運転の腕を過信している」と考えた。運転の慣れから自分につかなくてもよい自信がついてしまい、そんな気の緩みから危ない運転をして事故を起こしてしまうのだと思う。交通事故を防ぐためには、ドライバーに「運転は命を奪ってしまうかもしれないとても危ないもので、常に慎重でいなければならぬ」と安全運転の重要性を認識して、常に頭の中に入れてもらう必要がある。人間はどうしても慣れると少しずつ気が緩んでしまう。けれどそれは防がなければならない。多くの人達にも運転の恐さを忘れずに知ってほしい。この作文を読んだ先生もこのことを覚えておいていただきたい。皆が安心安全に過ごせる世の中のためにも。



『安心から油断へ』

前林中学校 1年 山内陽明里

「あぶない!!」

私はそう思った。四月のころ、私はすごい勢いで自転車に乗り、坂を下りていた。見通しの悪い丁字路で左から来た車とぶつかりそうになった。私は事故にあいかけたのだ。

今年の四月。まだ自転車通学に慣れないころ。いつも五時五十分起きの私は寝ぼけをしてしまった。このまま準備をしていたら間に合わない、と思った私は朝ごはんを食べずにいそいで教科書や制服をリュックにつめこんだ。七時四十五分までに家を出ないと登校完了時間の八時十分には間に合わない。家を出る前に時計を確認した。七時四十七分だ。私はあわてて自転車に乗り、ものすごい勢いで家の近くの坂を下りた。坂の下あたりまで来た。その時だ。私は自転車のブレーキもかけずにそのまま右に曲がろうとした。すると車が左からものすごい勢いで走ってきた。いつもは止まって車が来ていないことをきちんと確認してから行くのに、その日は寝ぼけであせっていたせいなのか、私は止まって確認をせずに右に曲がろうとしていた。さいわいな事に私は事故にあつことはなかった。車も私が乗っていた自転車も急ブレーキをしたからだ。車を運転していた女の人もおどろいた顔をしていた。私はその時、思った。時間がなくて、どんなにあせっていても一時停止することは大切だということ。今まではその道のところで一時停止をしなくても、運よく車がやってくることはなかった。そして、

「今日も車が来ることはないだろう。」

と言って、ふだん車が来ない事から安心感が芽生えてしまい、その安心感が油断につながってしまったのだ。私は今まで生きてきた中で一番ヒヤッとした。私はその時、死を覚悟した。もう二度と、こんな怖い思いはしたくなかった。車を運転していた女の人にもめいわくをかけてしまった。私はとても後悔した。次の日から私は寝ぼけをしてどんなにおくれそうになっても必ず一時停止をし、右と左を確認するようになった。止まって確認しようとしたら、車がいきなりでてきたこともあって、

「ああ、一時停止をきちんとして右と左ちゃんと確認していた良かった!!」と思うず、口に出してしまった。

私はこの事があってから、一時停止をしたり、標識がどんなところにあるのか、そして、その標識はどんな意味を持つかなどを調べたりするようになった。交通に対する意識がものすごく変わったような気がした。私があつたとき、車がものすごい勢いで来ていることに気が付かなかったら、もしかすると大きな事故になって、私は今、生きていなかったかもしれない。そう考えると、とてもヒヤッとして悲しくなる。私は他の人にも、このような本当に怖くて悲しい思いをしてほしくなかったのだ。友達や家族にも話した。すると、友達が

「え!? そんな事があつたの?? めっちゃ怖いじゃん。私も気を付けなきゃな。今まで、あんまり標識を意識したり、そういうことがなかったけど、今の話を聞いて本当にヒヤッとしたし怖かったから、私もこれから、標識とか確認して、時間がなくても一時停止するところではきちんと一時停止しよう!!」今の話をしてくれなかったら、私は交通に対する意識がうすれていてもかしらたら事故にあつていたかもしれない!! 本当にありがとう!! まじで感謝する!!」

といってくれた。私のこの一つの体験から一人でも友達をすくえたことがとてもうれしかった。

このようなことがあつてから時間がどれだけでも絶対に一時停止は大切だということ、標識はきちんと確認しそれを守ること、スピードの出しすぎは良くないことなど一つの物事からたくさんのことを学ばせてもらった。時間は自分で作るものであつて、命は自分では簡単にはつけないということ、標識はともじゅうような意味をもっていること、ものすごい勢いであつても、そうでなくても他の人にめいわくがかかってしまつたことをたくさんの人に伝えていきたいと思った。私は、一つでも多くの事故がふせげると良いな、一日でも早く世界の事故がゼロになると良いな、と心から思った。事故をゼロにするためには一人ひとりの意識を変えることがめっちゃくちゃ大切だと思う。だから、みなさんにも、交通事故はとても怖くて悲しくて色々な人にめいわくをかけることを知ってほしいな、と思った。

『身近な「油断」を』

豊田西高等学校 1年 加藤 綾花

「ドンッ」

一瞬自分の体に衝撃が加わる。

これは私が小学六年生の頃、車に乗っていて信号待ちのなか後ろの車にぶつけられたときの話です。スピードはたいして出ておらず、ケガ等もなく大事にはなりません。しかし事故には変わりなく警察を呼んだり、へこんだ車をどつするかにについて話し合ったりしていたのを覚えていいます。ほんの小さな事故、だからこそ少しの油断で簡単に起きてしまう。事故は身近に潜んでいる、そう実感した出来事でした。

私たちは普段起きている小さな事故についてはニュースなどでは放送されないため、実際に見ていない限りほとんどその存在を知りません。だからこそ「自分は大丈夫」と思っている人は少なくないと思います。しかし本当はどうでしょうか。

私はむかし自転車に乗ることは少なかったのですが、中学生、高校生と行動範囲が広がるにつれ乗る機会が増えてきました。今まで自分が自転車に乗っていて幸いにも事故にあつたことは一度もありません。しかし思い返して考えてみると、死角になっているところでヒヤッとしたことがあります。自転車や車に乗っているとき、ヒヤッとするような体験をしたことはありませんか。

このようなことを「ヒヤリ・ハット」と言います。みなさんは「ハイソリックの法則」と言う言葉を知っていますか？これは「一件の重大事故の裏には二十九件の軽微な事故と三百件の怪我に至らない事故がある」という労働災害の怪我の割合についての法則ですが、交通事故にも当てはまると思います。怪我に至らない事故、これはただの確率にすぎません。もしかしたら重大事故になっていたかもしれない。ヒヤリ・ハットの体験は

あつたとしても実際には事故になっていないと、後のホッとする感じが強く大事にとらえない人が多いと思います。しかしなぜヒヤッとする体験をしたのかを考えなければいけないと思います。原因を考えなければ同じことが繰り返され次はヒヤッとするだけでは済まなくなってしまうかもしれません。

原因はなんでしょう。

「自分は大丈夫」人は知らないうちにそう考えているものです。気づかないうちにしている油断、それが一番の原因だと思っています。実際重傷事故となる割合は自宅から五百メートル以内で半数近く起きているそうです。慣れてうまくできるのはいいことです。しかし、慣れることと油断することは違います。今全くヒヤッとした体験をしたことの無い人でもこれから先も大丈夫という保証はありません。

しかし、自分が油断していなければ大丈夫というわけではないのが恐ろしいところです。事故には相手がいることが多いです。だから自分や身近な人だけでなく、社会全体で気をつけていかなければ事故が無くなることはありません。

私はこれまでの経験と改めて考えたことから、事故を無くすためには大前提として「油断」を無くさなければいけないと思います。これは簡単なようで簡単ではなく、自転車や車が日常生活に溶け込み、あたりまえとなっている今では誰も抱えている問題です。初心にかえり、まずは自分が交通ルールをきちんと守れているか、そして環境として近所で見通しの悪いところはないかも一度考えてみてはどうでしょう。私自身今は自転車ですが、あと二年ほどで十八歳になれば車の免許がとれるようになります。便利にはなるけれどその分事故が起きてしまった時の人に害を与えてしまうリスクは高くなります。なので普段から油断をなくし、周りを見て行動していきたいです。

『じいをおいさせないために』

市木小学校 1年 岡村 拓真

「またじいじのニュースだね。」

おかあさんが、テレビをみながらいいました。

「おかあさん、テレビをけして。」

「え、なんで。」

「ぼくは、じいこのニュースがこわいんだ。」

「そっか、ごめんね。」

おかあさんが、すぐにテレビをけしてくれました。ぼくは、ほっとしました。

ぼくは、じいにあったことがあります。だから、じいにあたらでうなるのか、どごがいたくなるのかわかりません。わからなくてこわいから、ぜったいにじいにあいたくありません。

そのために、きをつけていることがあります。それは、おうだんぼでうでは、かならずてをあげるじいじです。

ぼくたちいちねんせいには、くるまからはみえにくいと、おとうさんがいます。

だから、てをあげてくれると、あるいてることがよくわかるので、とてもありがたそうです。くるまをつんとするひと、じいをおこしたくないから、おうだんぼじいをわたるときはてをあげてほしそうです。

くるまのなかのひとにぼくのこえはきこえなくても、ぴんとのびたぼくのは、くるまのなかからよくみえるとおもいます。

ぼくはてをぴんとあげて、ぼくがあるじいじのことを、みんなにおしらせてあげようとおもいます。

じいをおいさせないために、じいさんができると。これからも、ぴんてをのびして、おうだんぼじいをわたろうとおもいます。



『いのちをまもるあいごぼ』

五ヶ丘小学校 2年 梶山 凜花

おかあさんは、車にのったあとにかならず言うことばがあります。

「シートベルトは、しめた？」

わたしは、

「やったよ。」

と、こたえます。

こんなやりとりを、車にのるとします。いつからやりはじめたのか、わたしはおぼえていません。

おかあさんにきくと、まだ、わたしが二さいのときにおきた車のじこが、きっかけでした。

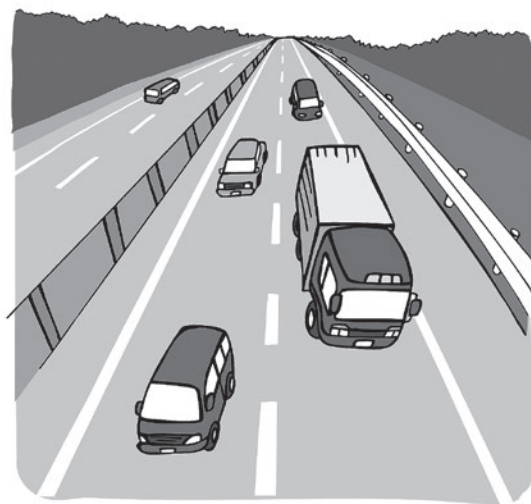
じこは、おでかけに行くところへおりました。わたしがのっていた車の中は、しろいけむりだらけで、となりの車は、ひっくりかえっていました。ぜんぶで五台もじこにありました。それでも、大きなけがをした人は、いませんでした。

きゅうきゅうしゃで、びょういんにいったとき、きゅうきゅうたいいんのの人に

「シートベルトつけていたから、大きなけがをしなかったんだね。」と、いわれました。

もし、シートベルトを、つけていなかったらと、考えただけでこわいです。みんながぶじで本当によかったです。

このじこから、うちでは、シートベルトのかくにんをするようになりました。あたりまえなことだけど、わたしにとっては、いのちをまもるあいことばだとおもって、これからも車にのったときは、かぞくでかくにんしつづけたいです。



『わたしに気付いて』

五ヶ丘小学校 3年 吉岡 玲奈

ごども園に通っていた時から、お父さんとお母さんに

「信号をわたる時は手をあげなさい。」

と言われていました。その時に理由も教えてもらったかもしれないけれど、わたしはずっとわすれていました。今わたしは小学三年生になりました。今でも信号をわたる時は手をあげてわかります。でもごども園の時とはちがい、今はしっかりと手をあげる理由があります。それは

「わたしに気付いて」

と手に思いをこめて車へ手をあげています。小学生になってから、わたしは、お父さんとよくおさんぽや自転車のりんしゅうをするようになりました。ある日、わたしは信号をわたる時に手をあげるのをわすれていました。その時お父さんに

「手をあげないとあぶないじゃないか。」

とおられました。たしかに手をあげないとあぶないと教えてもらっていましたが、ごども園の時からわたしは理由をずっとわすれたままです。お父さんはおこっていたので聞きづらかったのですが、思いきってお父さんに聞いてみました。

「なぜ手をあげないといけないの？」

するとお父さんは答えました。

「車を運でんする人からは、小さな子どもは見えないかもしれない。手をあげたら、運でんする人に手が見える。事ごにあわなくてすむ。」

それでもわたしは分かりませんでした。お父さんの車にのる時は、いつも後ろの席で、人がわたる時お父さんはいつもちゃんと止まっています。大人でも子どもでも手をあげていなくても止まっています。なら見えているんじゃないの？とわたしは思いました。するとお父さんは、家の車を使って教えてくれました。ちゅうしゃ場で助手席にわたしをすわらせ

て、手をあげた時と、手をあげていない時の車から見える位置をくらべてくれました。手をあげてくれた時は車に近くても手がしっかりと見えますが、手をあげていないと全く見えません。少しでも車に気付いてもらうために、手をあげると理解する事が出来ました。でもお父さんはなぜ手をあげていない人にも気付いて止まっていたのかふしぎになりました。お父さんに聞くと、

「家の車は車の高さが高くないから気付きやすいけど、トラックや大きな車だと気付くのはむずかしいんだよ。」

と教えてもらいました。だから近付いた車へ手をあげるのではなく、近付いた車の運でん手にわたしに気付いて！と手をあげたほうがいいんだよ。と教えてくれました。その後、わたしはお父さんから別のお話を聞きました。お父さんが昔よく通った道で、毎週お花が、ガードレールの所に置いてあったそうです。いつ通っても何年たってもいつも真新しいお花が置かれているそうです。お父さんは、気になって調べてみたら、昔そこでトラックが小さな子どもが渡っている事に気付かず、ぶつかってしまい、子どもは死んでしまったそうです。お父さんはたぶんだけど、その子どものお父さんかお母さんか分からないけどもその子どもの事が大好きだった人が今でもお花をかざっているんじゃないかと言っていました。その事ごは二十年近く前だそうです。そしてお父さんは、わたしに言いました。

「事ごでお父さんやお母さんが死んだらどう思う？」

わたしは答えられませんでした。考えただけでも泣きそうになります。

「それはみんな同じ。お父さんもお母さんも玲奈が死んだら考えられない。」

「だからそつならないように手をあげようね。」

わたしはようやく手をあげる意味を知りました。わたしに気付いて、そつ思いをこめて、わたしは手をあげて信号をわたります。

『嬉しい気持ちと、悔しい気持ち』

大畑小学校 6年 水野 心 愛

「第五位、豊田市立大畑小学校。」

と呼ばれた時、よかったと思った。個人の順位の発表で私の名前は呼ばれなかった。嬉しい気持ちと悔しい気持ちが同時にわいてきた。賞状ももらえた。自転車ももらえた。でも一番欲しかったのは個人入賞だった。今年もゴールデンウィーク明けに自転車の練習が始まった。六年生三人、五年生三人の合計六人で、去年も大会に出場しているのは、私を合わせて二人だけだったから経験者としてみんなをひっぱりたいと思った。一年ぶりの練習だったけど体が覚えていて結構上手に運転できた。自転車の練習の良いところは、指導者の人達が私たちをとことんほめてくれるところだ。たくさんほめてくれるから、自転車の練習は大変だけれど、毎回嬉しい気持ちで練習ができる。去年は実技でしかやる気が出ず、学科の勉強をやる気には全然ならなかった。だけど今年は、駐在さんが私たちに学科の勉強の指導をしてくれた。勉強は一人でやることとすると、すぐにあきてしまい、めんどくさい気持ちになるけど、みんなで勉強会をするとあきずに参加することができた。さらに豊田署の方が指導に来てくれたり、白バイ隊員の方も指導に来てくれたりした。去年個人で入賞した先輩も応援に来てくれて、もはん演技もしてくれた。たくさんの人々に応援や協力をしてもらって練習する日々が続いた。

学科もだいが覚えてきたな、実技もだいがよくなってきたなと思っていたタイミングで、家族で新型コロナウイルスに感染した。毎週水曜日、金曜日に練習をしていたが、天候と私のコロナの感染の影響もあり予定していた練習日が四回も減ってしまった。コロナで中々熱は下がらないし、身体中に発しんがたくさんでき、かゆすぎて眠れず、本当に私は自転車大会に出ることができるのかと、心配でたまらなかった。それでも

やることをやるしかないと思い、学科の勉強を毎日やった。今まで何かで賞に入りたいとかあまり考えたことはなかったけど、今年の自転車大会は、絶対に個人賞をもらうんだという気持ちが私をやる気にさせてくれた。コロナの療養期間が明けての練習日は大会まで後二日しかない。でも十日間家にずっといたので、すぐに疲れてしまい体力の低下を感じた。

終業式の日、私たちの自転車大会の応援を全校のみんながしてくれた。本番当日もたくさんの先生たちが応援に来てくれて、みんなに支えてもらっているなと幸せな気持ちになった。

会場について、みんなで実技のコースを確認し、その後学科のテストを直前までみんなで勉強した。そのお陰もあり、学科に手応えを感じ嬉しく思った。実技が始まり、心の中で今年は個人賞取れるかもと思っていた。けれども毎年優勝候補の子たちの順番になると、上手で一気に焦ってきた。あつという間に自分の番になり自転車に乗った時、いつもとサドルの高さががうことに気付いた。でも順番になったので実技を始めた。いつも通りにできず終わってしまい涙が出た。自転車のサドルが原因だと思ったけど、今更言っても仕方がないと思った。音楽隊の演奏を聞いても、表彰式のことと頭がいっぱいだった。

そして表彰式。大畑小学校は団体で五位になることができた。チームで協力して取れた五位は本当に嬉しかった。そして個人発表。分かってはいたけど名前は呼ばれなかった。これが最後の大会になると思うと悲しかったけどたくさんの方が褒めてくれて嬉しいと思うようになった。自転車大会を通して私は目標に向かって頑張ること、本当にたくさんの人に支えてもらっていることを学んだ。中学生になったら色々不安だけど、色々なことにがんばり、周りの人達に感謝をできる中学生になりたい。



優秀／中島 千穂（飯野小3年）



優秀／丸山 輝（駒場小1年）



優秀／後藤 穂華（飯野小5年）



優秀／藤井 ひなた（飯野小3年）



優秀／勝上 莉琉（飯野小6年）



優秀／山下 桃花（飯野小6年）



優秀／石井 結衣（浄水中1年）



優秀／中野 春香（中山小6年）



優秀／前田 倅希（豊田高1年）



優秀／竹市 眞（上郷中3年）



優秀／濱田 幹太（豊田西高1年）



佳作／持田 ゆらり（四郷小2年）



佳作／鈴木 瑛仁（上鷹見小1年）



佳作／丸山 葵羽（駒場小3年）



佳作／長嶺 恵（西保見小3年）



佳作／内藤 すみれ（益富中1年）



佳作／鈴木 楓弓（上鷹見小5年）



佳作／鈴木 衣知花（足助中2年）



佳作／矢野 葵（猿投中2年）



佳作／鈴木 摩耶（豊田西高1年）



佳作／二村 菜月（猿投台中3年）



佳作／北田 美柚（豊田西高1年）



佳作／藤本 夢（豊田西高1年）

交通安全標語の部

最優秀作品

手をあげて 目と目を合わせ ありがとう

一般 関 たづ子

◎は優秀 ○は佳作

とまってくれてありがとう運動の推進

◎てをあげて くるまにわたしを しらせよう！

朝日小学校 1年 吉田 恵里花

○うれしいな 止まってくれた おもいやり

伊保小学校 6年 松野 照永

子ども・高齢者の交通事故防止

◎暗い道 着けて安心 反しゃ材

井上小学校 5年 大田 俊佑

○青しんごう わたる前でも くるまのかくにん

滝脇小学校 1年 加藤 実和

自転車の安全利用促進

◎止まるんだ 「止まれ」があれば 自転車も

伊保小学校 5年 武田 光琉

○じてんしゃも いったんていし とまれのひょうしき

寿恵野小学校 3年 清野 ひまり

○自転車も 乗れば車の 仲間入り

猿投農林高等学校 2年 阿部 菜月

ドライバーの安全運転促進

◎みているよ 親のマナーは 子どもの手本
○まってるよ むじこでかえる パパのこと
○ライトオン 街灯よりも 早くオン

一般 安齋 まゆみ

美山小学校 3年 伊藤 莉奈

小原中部小学校 6年 加納 佑晟

交通安全全般

◎信号機 点滅しだした 次を待とう
○そこわたる? おうだんほどうは もっとさき

伊保小学校 5年 田口 芙耶

井上小学校 1年 服部 滯



それ いけ! **安全君** by K太

ダメ! 絶対! 飲酒運転!!

それ いけ! **安全君** by K太

通学児童に気をつけて運転しましょう!

それ いけ! **安全君** by K太

橋の上やトンネル出入口はとくに注意しましょう!

それ いけ! **安全君** by K太

夕方5時~7時は「魔の時間」です!

それ いけ! **安全君** by K太

「とまってくれてありがとう運動」実施中!

それ いけ! **安全君** by K太

運転中も歩行中も「ながらスマホ」は危険です!

令和4年度 交通安全作品 応募・審査結果

交通安全作文の部

	応募数	最優秀	優 秀	佳 作
小学校（低）	5	2	1	0
小学校（高）	3	0	0	1
中 学 校	11	2	0	0
高校・一般	83	2	0	0
合 計	102	6	1	1

交通安全ポスターの部

	応募数	最優秀	優 秀	佳 作
小学校（低）	461	3	3	4
小学校（高）	404	0	4	1
中 学 校	251	1	2	4
高校・一般	326	2	2	3
合 計	1,442	6	11	12

交通安全標語の部

	応募数	最優秀	優 秀	佳 作
小学校（低）	827	0	1	4
小学校（高）	918	0	3	2
中 学 校	21	0	0	0
高校・一般	596	1	1	1
合 計	2,362	1	5	7

総計（作文・ポスター・標語）

	応募数	応募学校数
小学校（低）	1,293	55
小学校（高）	1,325	
中 学 校	283	20
高校・一般	1,005	3
合 計	3,906	78





足助警察署長賞

出口 結衣 (大沼小3年)



豊田市教育委員会賞

林 莉奈 (中山小2年)



豊田市交通安全
市民会議会長賞

山下 なつみ (豊田高1年)

豊田市交通安全市民会議事務局

豊田市役所 交通安全防犯課内

〒471-8501 愛知県豊田市西町3-60

TEL:0565-34-6633 FAX:0565-32-3794

HP <https://signal.toyota.aichi.jp/>

